

アカウンティング	任 章
-----------------	------------

配当年次	1 年次	配当学期	1 学期	科目区分	ベーシック
単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	会計業務に関する実践的な知識を修得し課題に取り組むことができる。
	実践知識	○	理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	○	課題に対する観察能力と定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	○	実務的な簿記会計の、初歩的な技能を身につけることができる。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	経営倫理なかつく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知る。
	企業変革態度	○	会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を獲得。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アカウンティング

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要

アカウンティングは、ビジネス世界における、経営情報伝達のための共通言語である。本講座にあってはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計（すなわち、ステークホルダーに向けた外部報告会計）の基礎知識を学ぶ機会が与えられる。まずは大学学部における財務諸表論と重なりあう内容を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略に至るまでの考察を加えてゆく。講義コンテンツにあっては、ある程度（英文）カタカナの会計用語のリテラシーが得られるよう、デザインされている。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告の意義と関わる制度に関心を持ち、必要に応じ財務諸表に示された主要な報告数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

また、学期中に1回、学外からもゲストを招聘し、財務会計分野の視角を拓ける機会を得ることもある。

教科書

任 章 著『アカウンティングと財務諸表分析』（第10版、2017年3月刷）
 （初回の教室にて無償配布）

参考書

- ・ロバート・アンソニー／レスリー・パールマン著 西山茂監訳（2007年）『アンソニー会計学入門』 東洋経済新報社（いわゆる英文会計に馴染むために推薦する基本書。ただし購入は任意であり、授業にては全く使用しない。）
- ・簿記の学習をされたことがない人は、日商簿記検定3級程度の参考書（たくさん出ている本のうちから、よろしければご自分で適宜選んで）をご自身で学習してみてください。簿記の知識は本講座受講の前提ではありませんが、関わる知識があれば、この分野で用いられる「反射神経」のようなものが、磨かれることでしょう。
- ・任 章著（2017）『監査と哲学—会計プロフェッションの懐疑心—』 同文館出版（会計学で用いる基礎概念と用語の定義、会計監査諸基準の内容、さらには会計学の歴史について知りたい方には参考になると思います）。

授業計画・内容

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く（但し、プレゼンテーションの時間をとる必要もあり、講義順は大きく変わることがある）。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について（なぜ今、あえて「会計」を考えなければならないのか？）。

【会計の役割と職能】

③会計原則（GAAP）とは何か：特に米国基準（US-GAAP）と国際基準（IFRS）について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

- ⑤P/L の機能について。
【P/L】
 - ⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。
【キャッシュフロー】
 - ⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。
【アカウンティング・サイクル】
 - ⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。
【アクルーアル】 【アグレッシブ・アカウンティング】
 - ⑨ディスクロージャー：その制度と脚注情報 について。
【ディスクロージャー】
 - ⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。
【監査】
 - ⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。
【財務諸表分析】
 - ⑫年次報告と投資家向広報（IR）について。
【アニュアルレポート】
 - ⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。
【意思決定】
 - ⑭MBA アカウンティングの Wrap-Up.
【MBA】
 - ⑮アドバンスト財務会計への展望
【財務会計】
- …以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法	課題レポートそのものの質（20%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（10%程度）、ミニテストの成績（2回実施で70%程度）、を適宜ウェイト付けし、総合的に（100%にして）判断します。
事前・事後学習の内容	事前学習としては、（次回の講義でカバーする範囲をその前の回に示しますので）予めパラパラとテキストをめくってみて、イメージを掴む程度で結構です。事後学習としては、授業中、理解できなかった箇所を教員に（教室内で、あるいはメール等により）質問し、教員からの返答を待ち、その後理解を定着させること。さらに、ミニテストに備えて、関わる用語と概念、計算方法等につき、習熟を重ねておくことが望まれます。その他、授業外学習としては、やはり、日本経済新聞の金融関係のコラム記事、情報等に親しむことが効果的かと思われます。
履修上の注意	学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なります。特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容は十分に理解できると思います。英語の専門用語を多く引用しますが、カタカナで理解してもらえますので、英語力も不問です。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。 配布プリント等の教材は、各回、毎回教室に持参してきてください。
担当者からのメッセージ	教員は一方通行の講義をするのではなく、双方向のコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。教室にてはぜひ積極性を発揮してください。
キーワード	上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書。